



次代へ継ぐ 不戦の決意

終戦から80年 町内で戦没者追悼式

第2次世界大戦の終戦から8月15日で80年を迎えました。虻田、洞爺の両地区では今年も戦没者追悼式が開かれ、戦渦の犠牲者を哀悼。虻田、洞爺中学校の中学生がそれぞれのメッセージを読み上げ、戦没者の遺族とともに非戦の決意をあらたにしました。

戦没者追悼式は、洞爺地区で7月25日、虻田地区で8月6日に行われました。木村英昭会長、鈴木孝副会長など洞爺湖町遺族会の代表が、海外で現在も止まない戦火を憂慮しながら「戦争は何も生み出しません。先人の犠牲の上に成り立つ平和を守り抜きます」と誓いました。

戦争の記憶の風化が叫ばれて久しい昨今。洞爺地区では洞爺中3年の二瓶伽桜さん、佐藤蕾雅さん、2年の橋本依里さん、虻田地区では虻田中2年の三上妃愛さん、高梨桃花さんがメッセージを読みました。「宗教や民族の壁を乗

り越えて二度と戦争を繰り返さない世界にします」と決意を述べました。

終戦から80年を迎えた8月15日には、「戦争を語り継ぐ集い」が役場で開かれました。児童が、広島平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木慎子さんの生涯を描いた紙芝居「さだ子の願い」を見た後、存命中に折ったという千羽鶴を制作。色とりどりの折り鶴に戦争の無い世界への祈りをこめまし

